

雲仙岳火山活動状況*

Volcanic Activity of Unzen Volcano

九州大学大学院理学研究院 地震火山観測研究センター
Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Sciences, Kyushu University

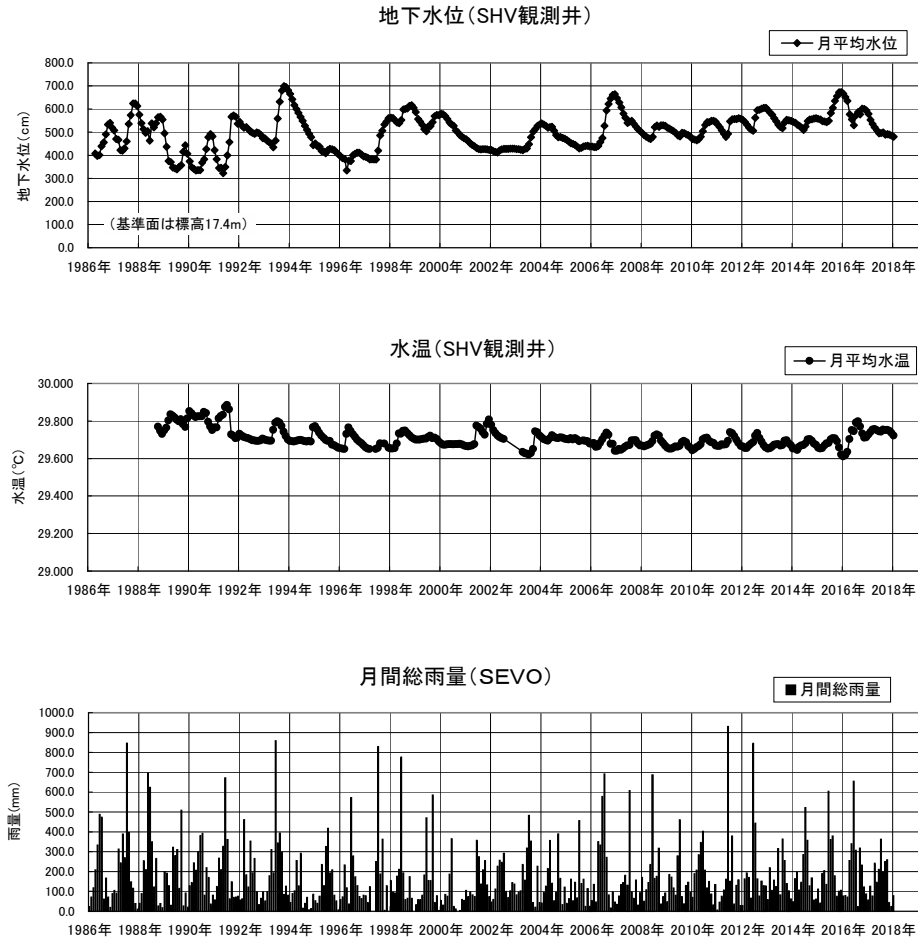
この期間も、普賢岳付近のごく小規模な地震は観測されるものの、雲仙火山の活動は引き続き低調な状態で推移している。

島原観測所温泉観測井(SHV 観測井)における水位・水温・雨量の連続観測結果を報告する。

SHV 観測井は眉山東麓に位置するセンター構内(標高 47.9m)に設置されている。孔井地質は、全層、雲仙火山に由来する火山砕岩である。深さは 365m で、孔径は、上部(0~100m 間)が 200mm、下部(100~365m 間)が 75mm である。全長にわたり、ケーシングパイプが挿入されており、255~355m 間にはストレーナーが配置されている。水圧式水位計を地表から 30.5m、水晶温度計を 329m の深さに設置している。

第 1 図に水位・水温・雨量の連続観測結果を示す。地下水位は、時差 2 ヶ月・半減期 12 ヶ月の実効雨量(雲仙岳)と正の相関が強いことがわかっている(回帰期間: 1998 年 1 月~1999 年 12 月)。火山活動に起因すると思われる顕著な変動はない。

* 2018年3月15日受付



第1図 SHV観測井における月平均水位・月平均水温・月間総雨量の観測結果。2005年5月以降の月間総雨量は気象庁アメダス島原を使用。

Fig. 1. Results of monthly-averaged water level and water temperature observed in the SHV borehole. Monthly total rainfall at the SHV borehole site is shown in the figure. Data of rainfall since May 2005 is from the JMA AMeDAS Shimabara.